

学力向上支援プラン

清水町教育委員会

● 全体的な傾向

平成27年4月に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果、教科に関する調査の平均正答率は、**小学校、中学校とも全教科において、全国平均を上回りました。**特に小学校の算数A、算数B、理科、中学校の国語B、理科については、全国1位の県を上回る結果でした。

学習状況調査では、中学校においては、自尊感情、言語活動・読解力について高い傾向が見られ、学習への関心も高く生活習慣や学習習慣が定着しています。また、小学校においても、規範意識、自尊感情、言語活動・読解力、学習への関心が昨年度に比較して向上しており、清水町の子どもたちが前向きで真摯な態度で学習に取り組んでいると理解できます。

”しみず「教育の四季」”を実践指標として、学校、家庭、地域が織り交ぜる心をかよわせた感性豊かな教育に取り組んできた成果として捉えることができます。今後も粘り強く、各学校、家庭、地域において、子どもたちの学力向上のための効果的な取組を意欲的に充実していくことが大切です。

学力とは

基礎的な知識や技能を習得して、課題を解決するための思考力や判断力、表現力などの能力とともに、学ぶ意欲なども含めたものです。

今回の調査は、こうした学力のうち、教科に関する調査での設問で、主として「知識」に関する問題と、主として「活用」に関する問題について調査したものです。

また、教科に関する調査のほかに、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面などを質問紙調査で聞きました。

主として「知識」に関する問題・・・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

主として「活用」に関する問題・・・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

平成27年度 全国学力・学習状況調査

【ねらい】

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

【調査方法】

- 平成27年度は、対象学年の全児童生徒を対象に調査を行う。
- 清水町は全小・中学校4校が実施した。

【実施日】 平成27年4月21日（火）

【学年・教科など】

- 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）、学習意欲、学習環境等に関する質問紙調査。
- 小学校6年生・中学校3年生

小学校6学年 調査結果概要

教科に関する 調査の結果

全ての教科において、平均正答率が全国平均を上回りました。

◆小学校6学年調査問題の趣旨・内容

- 国語A—文中の主語を捉え、述語との照応関係を理解する、新聞のコラムを読んで文章全体の構成や引用箇所を捉えることなどから基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題
- 国語B—目的や意図に応じて新聞記事の割り付けをする、登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読することなどから、基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題
- 算数A—計算の結果のおよその大きさとしてふさわしい数値を選ぶ、 180° より大きい過度の大きさを求める、などから、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題
- 算数B—日常の事象の解決に図形を見だし、その性質を記述する、基準量、比較量、割合の関係を基に、示された求め方の誤りを指摘することなどから、基礎的・基本的な知識・技能を活用できるかどうかをみる問題
- 理科—顕微鏡の適切な操作方法を身に付ける、水の温まり方について、予想が一致した場合に得られる結果を見通して実験を構想することなどから、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

○町内小学校6学年の学力の傾向

全教科において、全国の平均正答率を上回り、多くの児童が概ね学習内容を理解していると考えられ、全体的に基礎・基本の定着とそれらを活用することが身に付いていると言えます。

○課題と対応

今後も、家庭・学校・地域が連携して、生きる力をもった大人に育てていくため、家庭で保護者とともに読書をして、読んだ内容について、相手に伝わるように整理して話すことや、日常生活の中で、目的に応じて概数を使って見積もったり、比較すること、月や星の位置から感覚的に方位を捉えることなど、日常から実践していくことが重要です。

中学校3学年 調査結果概要

教科に関する 調査の結果

全ての教科において、平均正答率が全国平均を上回りました。

◆中学校3学年調査問題の趣旨・内容

- 国語A—スピーチの途中で聞き手の反応を見て、とった対応として適切なものを選択する、意見文に対して出された指摘の中で適切なものを選ぶことなどから基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題
- 国語B—資料を参考に2020年の日本の社会を予想し、その社会にどのように関わっていきたいか自分の考えを書く設問などから、基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題
- 数学A—正の数と負の数とその計算、文字式の計算、一元一次方程式などを解く。与えられた資料の中央値を求める問題
- 数学B—数量関係を表す式を用いて、放映画面の大きさの適切な変え方を指摘し、その理由を説明することなどから、基礎的・基本的な知識・技能を活用することすることができるかどうかをみる問題
- 理科—オームの法則を使って、抵抗の値を求める、上空と地上の気温差による降水量の違いを調べる実験を計画する設問などから、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

○町内中学3年生の学力の傾向

全教科において、全国の平均正答率を上回り、多くの生徒が概ね学習内容を理解していると考えられ、全体的に基礎・基本の定着とそれらを活用することが身に付いていると言えます。

○課題と対応

国語Aにおける「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」設問について、全国平均を下回っており、文脈に即して語句の辞書的な意味を基に捉える指導を充実することが大切です。

また、家庭・学校・地域が連携して、生きる力をもった大人に育てていくため、毎日必ず家庭学習に取り組む習慣を付けるための時間を、家族で保障してあげることなど、家族みんなで協力し支援することが大切です。

調査結果から次のような指導改善の視点が明らかになりました。

◎小学校

国語

◇学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり書いたりすることができるかどうかを見る指導の充実

- ・実生活において、習得した漢字を適切に使うために、日常的に文や文章の中で適切に使うことができるようすることが重要です。
- ・具体的な指導として、新聞や情報誌等に、習った漢字があるかどうか探す活動を設ける指導や、書いた文章を読み返し、文章の中で果たす漢字の意味を捉えた上で、正しく使用しているかどうかを評価する活動をなどが考えられます。

●各家庭での実践

- ・保護者も家庭での読書「家読（うちどく）」を実践して、家族全体で読書に親しみ、読書習慣の定着を図りましょう。
- ・家族で同じ本を読み、その主人公や作者の思いを想像して親子で話し合うなど読書が楽しみとなる環境を作りましょう。

算数

◇長方形の面積を2等分する考えを基に、分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を、言葉や数、記号を用いて記述できるかどうかをみる指導の充実

- ・示された考えをもとに、根拠となる事柄を過不足なく説明することができるようにする指導の充実が必要です。
- ・根拠となる事柄を適切に説明するには、前提となる考えや理由などの根拠を明らかにして、論理的に考えたり説明したりする指導の充実が必要です。
- ・「対角線の交点を通る直線で長方形の面積を2等分するという」考えを基にして、「長方形を組み合わせた図形の面積は2等分されている」という事柄が成り立つ理由を明らかにしていく指導の充実が必要です。

●各家庭での実践

- ・分数について考える家のお手伝いなど計算の伴うことを与えましょう。
- ・家庭学習の仕方について、家庭と学校の連携により、自分で課題を見付けられるよう内容の充実を図っていきましょう。

理科

◇方位を判断するために、観察した事実と関係付けながら情報を考察して分析できるかどうかをみる指導の充実

- ・日頃から方位を捉えながら月や星を観察することができる指導の充実が必要です。
- ・授業においては、方位磁石の使い方や教室での方位を確認し、事前に方位を意識しながら月や星の観察ができるようにする指導の充実が必要です。
- ・教室で方位磁石を使って、東西南北の方位を確認した上で、教室の壁面などに方位を掲示しながら、「窓は南、黒板は西、廊下は北」などのように日常的に方位を意識できる環境の工夫をすることが必要です。

●各家庭での実践

- ・家族で月や星の観察をしながら、方位や月の満ち欠け、星座などについて話し合ひましょう。
- ・登校時に自宅を出たときの太陽の向きから、方位を捉えられるよう日常から家族で意識した会話をしましょう。

◎中学校

国語

◇語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことができるかどうかをみる指導の充実

- ・場面に即した語句・語彙についての指導の充実が必要です。
- ・語句の意味について理解を深めるためには、語句の辞書的な意味を基にして、文脈に即して意味を捉えるようにする指導の充実が必要です。
- ・日常生活で使うことが少ない語句については、短文を作ったり、別の表現で言い換えたりする学習活動を行う必要があります。

●各家庭での実践

- ・幅広くいろいろなジャンルの本を読む習慣を付け、家族と本に書かれていた内容について話し合うことなど、日常から実践していきましょう。
- ・学んだことを身に付けていくためには「授業に集中すること」と「家庭学習」が重要です。その日に学習した漢字や語句などを確認したり、分からないことはそのままにしないで、家族が教えるなど家庭学習がしやすい雰囲気を作りましょう。

数学

◇具体的な事象における数量の関係を捉え、連立二元一次方程式をつくることができるかどうかをみる指導の充実

- ・方程式を利用して問題解決する場面では、問題の中の数量やその関係から、2通りに表わすことができる数量を見だし、方程式をつくるようにする指導の充実が必要です。

◇与えられた比例のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求めることができるかどうかをみる指導の充実

- ・グラフを用いて変域を視覚的に捉える活動を取り入れ、与えられた x の変域から対応する y の変域を求めることができるようにする指導の充実が必要です。

◇与えられた情報から必要な情報を選択し、適格に処理することができるかどうかをみる指導の充実

- ・授業においては、1回目と2回目の落とし物の合計が異なることを確認し、落とし物の中の文房具の割合を用いることで、事象の傾向を捉えることができるようにする指導の充実が必要です。

●各家庭での実践

- ・授業で学習した内容を、復習をし確認するとともに、予習を習慣付けしていくことで授業の内容を理解することが容易になります。
- ・日常生活の中で、比例や反比例する事象を家庭で話題にし、お互いの考えを話し合うことなどを実践しましょう。

理科

◇技術の仕組みを示す場面において、コイルと磁石の相互運動で誘導電流が得られるという知識を活用して、回路のスイッチの入り切りによる磁界の変化を説明することができるかどうかをみる指導の充実

- ・理科で学習したことが関係する科学技術について、科学的な概念を使用して考えたり説明したりできるようにする指導の充実が必要です。
- ・「コイルと磁石の相互運動」と「無接点充電器」による「電磁誘導を比較して説明する学習場面を設定し、個人で考えた後に、グループでお互いの考えを共有させる指導の充実が必要です。

●各家庭での実践

- ・日常生活の中で、非接触ICカードや無接点充電など科学技術について、家族で関心を持ち、お互いの考えを話し合うなど実践しましょう。

質問紙調査の結果

小学生は、学習習慣、言語活動・読解力、自尊感情、規範意識、各教科への関心等が全国基準を上回っている。生活習慣は全国基準と同程度の状況です。
中学生は、学習習慣、生活習慣、言語活動・読解力、自尊感情、各教科への関心等が上回っている。規範意識は全国基準と同程度の状況です。

◇質問紙調査の趣旨・内容

学力の状況のみならず、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する質問紙調査を実施し、学力とその相関関係等を分析します。学力との相関については、①学習に対する関心・意欲・態度②学習状況③学習習慣④学校生活等⑤基本的生活習慣・自尊意識・規範意識などの項目について調査が行われました。

町内の児童生徒の学習習慣や生活習慣等の傾向

小学校6学年児童については、全国基準と比べて、自分の考えや意見を発表することや友達の話や意見を最後まで聞くことが高い傾向にあり、特に地域行事への参加、学校のきまりを守ることが特に高い状況でした。学習塾に通っていない割合が高いですが、家庭での学習量については全国に比べ若干高い状況です。

中学校3学年生徒については、全国基準と比べて、自ら計画を立てて勉強すること、地域行事への参加や社会や地域に対する関心などについて高い傾向にありました。読書量については、やや上回っている状況でしたが、家庭学習の時間は少ない傾向にあります。学習に対する関心については、各教科ともに関心等は高く、特に理科は計画的な学習や考察、振り返りができているという状況でした。

改善の方向性

○「習得」「活用」「探求」の学習プロセスを重視し、確かな学力を確立するための学習活動を充実しましょう。

◇知識・技能の確実な定着を図る指導の工夫改善に努めましょう。

□基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるため、体験的な理解を重視した学習活動や、授業の最後に「まとめ」「振り返り」をしっかりとする学習指導の工夫改善を図る。

□一人一人の習熟度等に応じたきめ細かな指導を一層充実する。

◇思考力、判断力、表現力等を高める指導を充実し、実際に課題を探求する活動の実践に努めましょう。

□観察・実験、レポートの作成、論述などの学習活動を発達段階に応じて充実し、教科等において記録、要約、説明などの学習に取り組む。

□総合的な学習の時間における教科等を横断した探求活動を充実する。

○「教えて考えさせる授業」の展開など学習意欲の向上につながる指導の工夫改善に努めましょう。

□児童生徒の学習意欲を高める「分かる授業」の実践研究を推進し、児童生徒の自立性を促すことができるよう教師の授業力を高める。

□地域の人材の活用も含め、多様な指導者によるチーム・ティーチングや少人数指導、習熟の程度に応じた指導等の充実を図る。

○家庭・学校・地域が相互に連携し、学習習慣や基本的な生活習慣の育成を図るための活動を充実しましょう。

□自宅での勉強の前に1～2分でできる簡単なプリントを繰り返すなど、学習への意欲と集中力を育てる工夫をする。

□勉強する時間を決めて表示するなど、子ども自身が時間を意識した生活習慣の改善を図り、生活リズムの中に家庭学習時間を確保する。

○読書に対する意欲を高め、読書活動を活発にする取組の一層の充実を図りましょう。

□全校一斉の読書活動を推進し、学校図書館の活用を図る。

□毎月19日の「しみず読書の日」を意識して、読書の習慣化を図る。

◎26年度の教研式標準学力検査CRTによる子どもの学力（小3・小5・中2）の結果から十勝の子どもたちには次の傾向が見られました。

・小学校3学年は全教科、5学年では国語以外で全国を下回りました。

・中学校2学年では、理科が全国を上回りましたが他教科は下回っています。

◎本町の子どもたちについては、次の傾向が見られました。

・小学校3学年では、全教科で全国を下回りました。

・小学校5年生では、社会科が同レベルで他の教科は全国を上回りました。

・中学校2学年では、理科が全国を上回りましたが他の教科は下回りました。

教育研究所との連携

清水町教育研究所では、こうした調査の結果を受けて、十勝教育研究所と連携し、教育課程や授業の工夫改善、家庭学習の推進に取り組んでいきます。各学校においては、研究所の研究成果を参考にするとともに、各学校において常日頃より実践研究に取り組んでいただくなど、連携を図りながら、町内の児童生徒の確かな学力の育成に努めていきます。